第十五講　家族論

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

個人化の時代と言われている。家族の絆（きずな）が弱まっているとも言われる。しかしながら、人々が家族的「絆」を求める欲求は、決して弱まっていない。

ここでいう絆とは、「長期的に安定した信頼できる関係性」と定義しておく。経済的には、困ったときには助け合うというセーフティーネットであり、心理的には心の拠（よ）り所と表現することができる。孤独が好きな人もいる。［Ａ］、多くの人々は、信頼できる人間関係を作りたいと願い、持ち続けたいと思う。

あえて、家族的絆と呼ぶのは、社会が近代化された後、このような関係性は、親子や夫婦などの「制度的家族」が供給したという事情による。

制度的家族とは、血縁や法律で繋（つな）がっている関係であり、選択不可能で解消が難しいという特徴がある。親は子を、子は親を選ぶことはできない。夫婦は一度選択してしまえば、解消には大きな困難が伴う。イヤでも切ることが難しい不自由な関係性ということができる。しかし、制度的家族と絆の関係は微妙である。

伝統的社会では、絆はイエやムラ、親族などの共同体が提供し、宗教が下支えしていた。日本では、明治時代までは、死亡率や離婚率が高く、親子や夫婦は、長期的に安定した関係と言えなかった。それゆえ、家族を包み込む共同体が生活を保障し、安心できる心の拠り所として機能していたのである。［Ｂ］、人々は、ムラの掟に従うなど、絆を維持するための不自由を甘受（かんじゅ）していた。

社会が近代化され、共同体から離脱する自由を獲得したとき、人々は安定した信頼できる関係を小規模な家族に求めた。そのためには、平均寿命が延び、乳児死亡率や離婚率が低下し、親子や夫婦が長期的に安定した関係になっている必要がある。その条件は、日本では、戦後の経済高度成長期に満たされた。ほとんどの人は結婚し、子どもを産み育て、離婚は少なかった。家族が、［Ｃ］の場と心理的拠り所を提供した。制度的家族を作り維持することが、絆を保持することとイコールとみなせたのである。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

すると、家族が絆の象徴となった。親密な友人を、「家族のような」関係と形容したり、企業が従業員家族の一生の生活を保障するシステムを家族的経営と呼んだりするのは、絆と家族関係が同一視された結果に他ならない。しかし、この同一視は、近代になって生じたものであることを念頭に置く必要がある。

制度的家族と信頼できる関係性（絆）が一致しない機会が増えたのが、現代社会の特徴であり、様々な問題を生み出す原因となっている。

離婚や家庭内離婚の増加にみられるように、愛し合って結婚したからといって、信頼関係が永続するわけではない。児童虐待や親殺しなどにみられるように、親子が必ずしも信頼できる関係であるとは限らない。現実を直視する機会が増え、マスコミなどでの事件報道が増えるにつれて、家族だからと言って、自動的に「絆」が形成されるわけではないという認識が深まっている。

一方で、同性愛カップル、事実婚、グループホームに一緒に住む人、ペットをかわいがる人のように、制度的家族から離れた所に「絆」を求めようとする人が出現してきた。彼（女）らは、ことさら、自分たちの関係こそが「本当の家族」であることを強調する。［D］、絆を家族と読み替えているのである。これらの関係は、新たな家族のかたちとも言えるが、正しくは、［E］が分離した形態なのである。

もう一つの現代社会の特徴は、家族を作らなければ満たされなかった欲求が、家族なしでも果たせるようになったことにある。電化製品が普及し、コンビニができ、女性の就労が一般化し、福祉制度が整ってきた。（少なくとも大人にとっては）経済的生活をするために、家族は必要ではなくなっている。また、一緒に遊んだり、セックスしたいといった心理的欲求も、わざわざ家族を作らなくても満たすことができる。絆がなくとも、とりあえず、生活に不自由することはない。

絆と制度的家族、欲求充足という三つの領域が分離しはじめていることによって、われわれは、絆を築く上での可能性と困難性に直面することとなる。

イギリスの社会学者ギデンズは、人間関係が制度的拘束から解放されたからこそ、純粋な関係性を築く可能性が拓（ひら）けたことを強調する。確かに、共同体や家族という拘束的関係から離れて、自由に絆を築く相手を選択することは、一種の解放に違いない。イヤだと思う関係を無理して続ける必要はなくなり、これと思う関係のみを絆として選び取ることが可能になる。

しかし、選択された絆は、永続性を保証されない。前近代社会では共同体が、近代社会では制度的家族が、絆の存続を保証し

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ていた。現代では、個人は、絆を作り、保つための努力が要求されるようになる。同時に、絆を一時的に失う覚悟も求められる。
そして、絆が自由に選択できる社会は、自分が絆を結ぶ相手として選択されない可能性が高まる社会と言うことができる。例えば、結婚願望が強いのにもかかわらず、未婚者が増えているという日本の現状は、結婚したいという相手からは選択されず、自分の眼中にはない相手から告白されるという事態が広範に生じているのも一因である。
また、絆を結ぶ能力を仮に「コミュニケーション能力」と言うならば、その能力の格差が様々な問題を生み出しはじめている。選択されずに、絆から排除される人が出てくる。パートナーが得られない、子どもに見捨てられるなど、大人なら［F］に帰すことができよう。しかし、児童遺棄や虐待などの例を見れば、親に選択されない子どもが現実に存在している。ことが経済的格差や生活の保障ならば、福祉などで社会的に対処することはできるが、「絆」自体を社会が作り出すことはできない。子どもやコミュニケーション能力の弱者に対して、信頼できる関係性を保障する方策を社会的に考えなければいけない時期にきている。

（山田昌弘（やまだまさひろ）『家族というリスク』による）

問１　空欄［A］・［B］・［D］に入れるのに最も適当と思うものを左の中から選び、それぞれ符号で答えなさい。ただし同じものを繰り返し用いてはならない。

①　しかし　②　たとえば　③　しかも　④　つまり　⑤　その代わり

問２　空欄［C］・［F］に入れるのに最も適当と思うものを左の中から選び、それぞれ符号で答えなさい。ただし同じものを繰り返し用いてはならない。

①　教育問題　②　社会的責任　③　自己責任　④　自由意志　⑤　生活保障　⑥　信頼関係

問３　空欄［E］に入れるのに最も適当と思う五字以上八字以内の語句を、本文中の語句を用いて「〜と〜」という形で答えなさい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問４　次のうち、本文の著者の考え方と合致していると思うものに対しては○、合致していないと思うものに対しては×の符号で答えなさい。

①　伝統社会では、人々は家族をとりまく様々な共同体に支えられて、安心して生活を送っていた。
②　伝統社会では、イエやムラ、親族などのおかげで親子や夫婦の関係は長期的に安定していた。
③　近代社会では、個人の自立が進んだために家族的絆が弱まり、それを維持するためには絶えざる努力が必要となった。
④　現代社会では、お互いに信頼し合える特定の相手がいなくとも、生活するのにそれほど困らなくなっている。
⑤　現代社会では、心の支えとなる相手を見つけ結ばれるための特別な能力の有無が昔よりも重要になっている。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十五講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　山田昌弘＝やまだ　まさひろ（一九五七〜）東京都生まれ。東京大学文学部卒、同大学院社会学研究科博士課程満期退学。中央大学文学部教授。専門は家族論、家族社会学。「パラサイト・シングル（収入があるのに親と同居する成人独身者）」「婚活」「希望格差社会（親の所得格差が、子供の学習意欲や希望のもちようの格差となっている）」などネーミングの才がある。入試現代文や小論文でも頻出の論客です

●アンソニー・ギデンズ（一九三八〜）イギリスの著名な社会学者。ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス名誉教授

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

語句

セーフティーネット↓失業保険や生活保護など、社会生活に一時的に行きづまっても復帰できるための社会保障。もともとはサーカス用語。命綱や安全網があるからこそ空中ブランコや綱渡りで最高のパフォーマンスを披露できるわけです

拠り所＝よりどころ↓心の支えや頼りになるところ／学問の議論で、根拠になるもの

近代化＝きんだいか↓理性や科学や人間の自由や権利を重視する方向になること。日本では、明治維新以後が近代化の第一段階。戦後がその第二段階と考えられる

イエ・ムラ↓筆者がわざわざカタカナで表記したのは、たんなるファミリーやホームとしての「家」や「市・町」に対する行政単位の「村」ではなく、伝統の縛りのあるかつての「イエ」や「ムラ」を指しているからです

掟＝おきて↓その社会や共同体内で守らなくてはならないきまり

マスコミ↓マス・コミュニケーションの略称・不特定多数の大衆向けに情報を大量伝達すること。その媒体が新聞、雑誌、ラジオ、テレビ、ネットなどのマスメディア

事実婚＝じじつこん↓公式な戸籍を入れないで同居したり、子供をもったりするカップル

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十五講

次の傍線部にあたる漢字を、次の選択肢から選びなさい。

（ア）市場に商品をキョウ給する　①競　②共　③興　④経　⑤供

（イ）左右の微ミョウなバランスをとる　①妙　②名　③明　④冥　⑤命

（ウ）家族との絆をイ持し続ける　①維　②居　③遺　④緯　⑤意

（エ）幼児虐タイが疑われる　①態　②体　③耐　④怠　⑤待

（オ）ＩＴ端末が社会に普キュウする　①急　②及　③給　④朽　⑤求

（カ）企業のシュウ労規則に従う　①囚　②習　③就　④執　⑤修

（キ）社会保障とフク祉政策を立案する　①福　②復　③副　④複　⑤幅

（ク）心身のコウ束から自由になる　①硬　②構　③甲　④抗　⑤拘

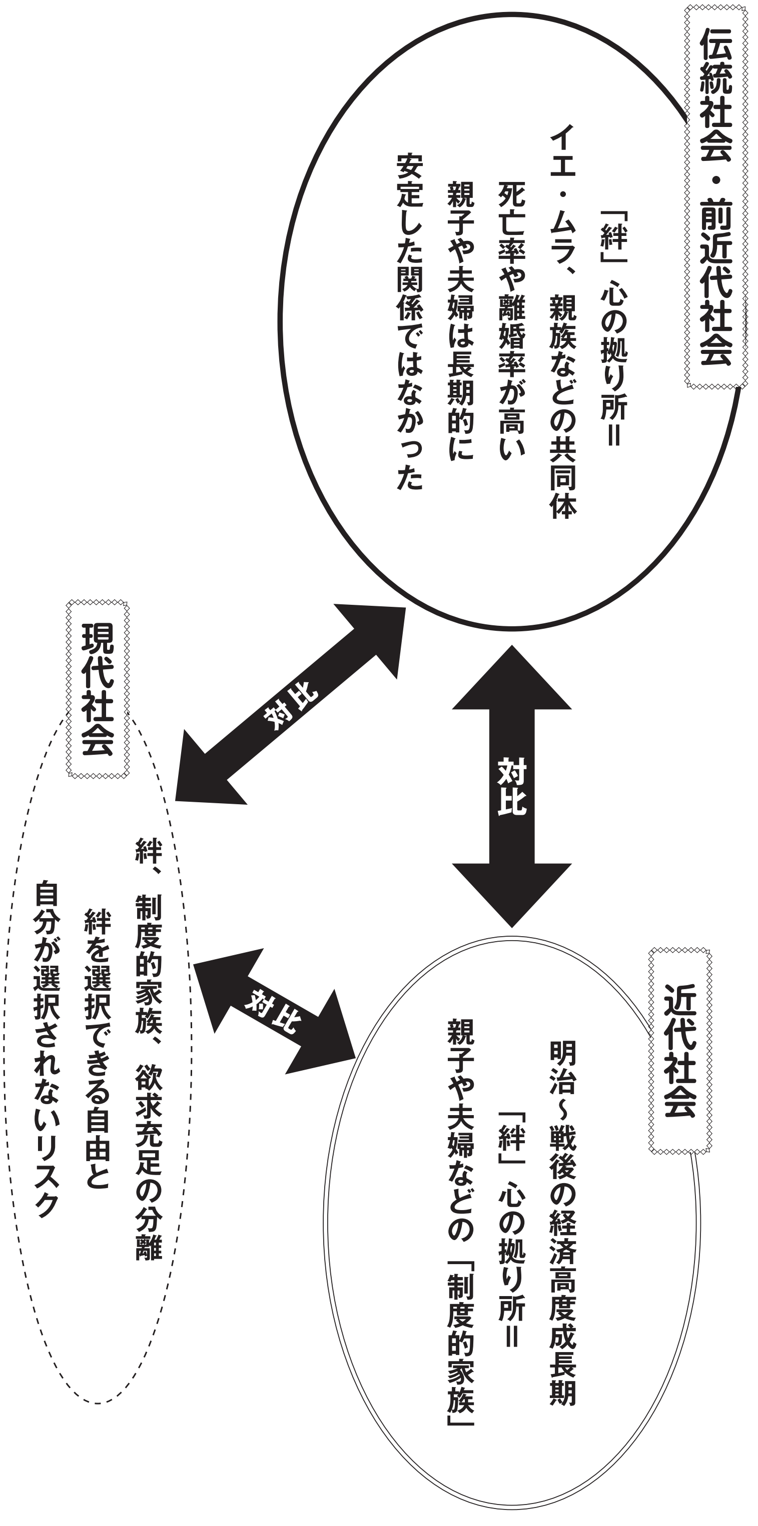
（ケ）影響力は広ハンにわたっている　①版　②畔　③範　④班　⑤判

（コ）不確実な要素をハイ除する　①廃　②灰　③敗　④排　⑤配

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十五講　家族論

《本文の対比構造》



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《解説》

問１《接続語の空欄補充・選択肢》

[A]の直前では「孤独が好きな人もいる」とふっておいて、いわば一歩譲ってある種の立場があることも認めておいて（こういうのを〝譲歩〟といいます）、[A]の後、それを乗り越えて「多くの人々は、信頼できる人間関係を作りたいと願い」としています。したがって、〝逆接（だが・しかし・けれども・ところが）〟を選びます。映像授業ですと、〝色違いをつなぐ〟接続語ということになります。選択肢から①の「しかし」です。なお、この[A]前後は、冒頭部分「個人化の時代と言われている。家族の絆（きずな）が弱まっているとも言われる。しかしながら、人々が家族的「絆」を求める欲求は、決して弱まっていない」の繰り返しでもあります。

[B]の前後とも「共同体」「ムラ」の話です。ただし、直前は「生活を保障し、安心できる心の拠り所」というプラス面を挙げて、直後は「ムラの掟〜不自由」といったマイナス面を挙げています。ここで注意すべきは、「心の拠り所」というプラス面が「ムラ」「共同体」の説明としてより重要であるということです。なぜなら「絆」の話をしているからです。[B]直後の「不自由」は、サブ的位置づけ、補助、ただし書き、条件付きということです。選択肢からは⑤の「その代わり」を選びます。

[D]は〝言い換え〟を導きます。「制度的家族」から離れた人間関係（同性愛カップルや事実婚など）を選択した人たちが、いわゆる「家族」ではないのに「自分たちの関係こそが『本当の家族』であることを強調」している。これを言い換えて「絆を家族と読み替えている」ということになります。したがって、④の「つまり」と決まります。

問２《空欄補充・選択肢》

[C]は、何らかの絆がもたらすもので、しかも「心理的拠り所」とならぶ安心要素ですね。第二段落に「経済的には、困ったときには助け合うというセーフティーネットであり、心理的には心の拠り所」とあります。これが根拠になり、⑤の「生活保障」と決まります。

[F]はどうか。「大人なら[F]」で済まされるが、子どものことまで視野に入れれば「社会的に考えなければいけない」という対比です。①の「教育問題」や②の「社会的責任」は子どもを視野に入れた方です。つまり対比混乱の誤りになってしま

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

います。その反対で〝大人の個人レベルの問題〟でなければなりません。③の「自己責任」か④の「自由意志」か。もちろん「社会的責任」の反対だから「自己責任」で決まり、でもよいですが、もうひとつ、「パートナーが得られない、子どもに見捨てられるなど」ネガティブな例とセットであることに注目しましょう。これらは「自由意志」で選んだわけではありませんね。こうした考察からも「自己責任」と決まります。

問３《空欄補充・抜き出し》

Ｅの直後にある「分離」に注目しましょう。何と何が「分離」したのでしょうか。この周辺部分と類似した表現を探すのが有効な方向です。そこから、何と何の内容もわかるはず。すると、二つ前の段落に「現代社会の特徴」として、「制度的家族と信頼できる関係性（絆）が一致しない機会が増えた」とあります。ただし「制度的家族と信頼できる関係性（絆）」では字数オーバーです。なんとかそれを「五字以上八字以内」で表現したものはないのか。あります。その前の段落にあります。「近代社会」の説明として「絆と家族関係が同一視」とあります。ああそうか、近代ではセットだったものが現代では分離なのね、とわかります。したがって、まず「絆と家族関係」で正解です。もうひとつあります。Ｅの二つ後の段落に「絆と制度的家族、欲求充足という三つの領域が分離」とあります。こちらをとって「絆と制度的家族」としても正解です。

問４《全文理解にもとづく正誤問題》

本文にあった三つの対比、すなわち「伝統社会」「近代社会」「現代社会」が出てきますね。それぞれの説明としてOKかどうか、吟味しましょう。しかも今回は○×形式ですから、×と判断出来たらそれも得点ですからね。①②は「伝統社会」の説明を試みています。まず①ですが、安心安全の拠り所として「家族」ではなく「家族をとりまく様々な共同体」を挙げていますね。これはOKです。他方、②は「親子や夫婦の関係は長期的に安定していた」が×です。本文に「明治時代までは、死亡率や離婚率が高く、親子や夫婦は、長期的に安定した関係と言えなかった」とあります。「親子や夫婦」といった典型的な家が安定するのは「近代社会」です。したがって、対比混乱の誤りです。すがすがしいほどの間違いですね。③は「近代社会では」と言っておきながら、その内容は「現代社会」のものですね。×です。これを対比混乱の誤りと呼ばずして他になんと呼ぼう！出題者が、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

こういうカタチで間違いの選択肢をつくっているのだな、ということもよくわかるね。解答するわれわれ、受験生であるみなさん方も、そういう間違いのパターンを知っておくと、実になめらかにスピーディーに解答できてしまうことが想像できるでしょ！　④⑤は「現代社会」です。さあ、点検しましょう。④は、本文中の「家族を作らなければ満たされなかった欲求が、家族なしでも果たせるようになった」「経済的生活をするために、家族は必要ではなくなっている」「絆がなくとも、とりあえず、生活に不自由することはない」といった記述に合致しています。○です。⑤は「特別な能力の有無」が×です。本文では「絆を結ぶ能力」を「コミュニケーション能力」と呼んでいますが、「特別な能力」などとは表現していません。記述なしです。さらに、本文にあるのは「コミュニケーション能力」の「格差」です。「コミュニケーション能力の弱者」という表現もありますね。つまり、この能力の〝強弱の格差〟は本文にあれど、「有無」はでてきません。本文にない対比を勝手につくってしまった間違い、そうです、正しい対比喪失の誤りです。というわけで、⑤は×。

模範解答

問１　A＝①　B＝⑤　D＝④　問２　C＝⑤　F＝③　問３　絆と家族関係／絆と制度的家族（どちらでも正解）

問４　①＝○　②＝×　③＝×　④＝○　⑤＝×

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　解答　第十五講

（ア）⑤　（イ）①　（ウ）①　（エ）⑤　（オ）②
（カ）③　（キ）①　（ク）⑤　（ケ）③　（コ）④

解答漢字一覧

（ア）供給　（イ）微妙　（ウ）維持　（エ）虐待　（オ）普及
（カ）就労　（キ）福祉　（ク）拘束　（ケ）広範　（コ）排除

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。